

# 情報処理センター年報20号発行にあたって

情報処理センター所長 **横田 浩**

大学の山陵キャンパスへの移転に併せて、情報処理センターが設置されて21年以上が経過し、翌年度に発行された情報処理センター年報も今号で20号を数えます。

この20年余りで、大学および情報処理センターを取り巻く環境が大きく変化しました。情報処理センターに関係することでは、ホストコンピュータとして汎用機を、端末機としてパソコンを用いた方式（ホスト・端末方式）から、サーバとしてワークステーション、クライアントとしてパソコンを用いた方式（サーバ・クライアント方式）に変更されました。さらに、インターネットにも接続され、学外との情報やデータの交換も簡単に行えるようになりました。また、当初は汎用機・ミニスパソコンやワークステーションを用いた計算サーバを設置し、教育とともに研究への支援を行ってきました。しかしながら、今年度の更新で、計算サーバは廃止となりました。パソコンやイントラネットサーバの能力がアップしたこともありますが、情報処理センターの役割における学習・教育支援の比重が増加したことも無縁ではありません。情報やコンピュータに関する教育も、いわゆる「情報処理」教育から「情報」教育へと変化したことも関係しています。数年前からの「学習（教育）支援システム」に加え、今年度（後期）から「e-learningシステム」が導入され、より学習・教育支援の役割が、増して行くものと思われれます。

このような情報処理センターの性格上、センター年報の内容は、更新時の新システムの概要や新しい機器等の紹介記事、主に本センターを利用した情報（処理）教育に関する論説、さらに、コンピュータを利用した研究論文等、学内の他の発刊物（紀要や研究所所報等）に比べて多義にわたるものになっています。

今後は、プレゼンテーション等でパソコンを用いる授業等情報処理センター以外の教室での利用も増えていくものと思われれますし、「e-learningシステム」を活用した教育も重要性が増していくものと思われれます。これらに対しても情報処理センターは支援をしていきます。そのうえで、これらの経験を広く他の教職員の方に知っていただくことは、昨今重要視されているFDの観点からも大切ではないかと考えます。そのような視点からの寄稿も、ぜひ、お願いいたします。